会　議　録（1）

会議の名称	令和２年度　第３回児童発達支援センター運営協議会 （令和２年度第６回入間市児童福祉審議会合同開催）
開催日時	令和３年３月１５日（月） 午前１０時４５分　開会　午前１１時５５分　閉会
開催場所	健康福祉センター　３階　３０１会議室
議長氏名	越智恵子
出席委員(者)氏名	【児童発達支援センター運営協議会】 越智恵子　新井真由美　細川大輔　野澤純子　池田拓　並木範一 野口泰子　桂川泰典　関剛規　白木久美子　上野菜津子　清水繁 【児童福祉審議会】 野口泰子　田辺曉己　米山みどり　宮岡幸江　桂川泰典 池田拓　島田可南子　髙垣夕紀　石川和子
欠席委員(者)氏名	【児童発達支援センター運営協議会】 茂木陽　早川等　植竹利之 【児童福祉審議会】 野口春美　繁田剛　安藤淳一　苔縄雅恵　大森洋司　大澤力
説明者の職氏名	こども支援課主任　雨間元良　藤沢第二保育所保育士　山田美沙紀
会議次第	１　開会 ２　こども支援部長あいさつ ３　議事 （１）入間市児童発達支援センター事業の運営状況について（公立保育所における「ＣＬＭ」実地運用の状況報告及び意見交換） （２）その他 ４　入間市長あいさつ ５　その他 ６　閉会　会長あいさつ
非公開理由	
傍聴者数	なし

配　布　資　料	「入間市におけるＣＬＭの取組み経過について」 「公立保育所における『ＣＬＭ』実地運用の状況報告および意見交換会」 「入間市児童発達支援センター　令和２年度事業の運営状況」
事務局職員職氏名	【こども支援部】部長　原嶋裕子　次長　佐藤政史 【こども支援課】課長　木下義幸　副参事　中村正幸 主幹　忍足耕史　副主幹　粕谷淳子 副主幹　大谷元実　主査　加藤ゆかり 主任　雨間元良　主任　橘内明子 主事　小原涼　会計年度任用職員　清水律子 【こども政策室】室長　徳山雅美 【保育幼稚園課】課長　鈴木浩昭　主幹　横田修　主任　増岡一枝 【藤沢第二保育所】所長　瀧澤益美　保育士　山田美沙紀 【青少年課】　課長　黒木聡子 【学校教育課】　副参事　吉野正美 【株式会社スペクトラムライフ】代表取締役　桑野恵介
会議録作成方法	要点筆記

会　議　録（2）

議事の概要（経過）・決定事項
1　下記の議題について事務局から説明し、審議を行った。 委員からの質疑については、事務局が回答した。 （1）入間市児童発達支援センター事業の運営状況について （公立保育所における「ＣＬＭ」実地運用の状況報告および意見交換会） （2）その他

会　議　録（3）

発言者	発言内容
	（委員及び事務局の発言が行われた部分のみ記述する）
司会（木下課長）	これより、児童福祉審議会と児童発達支援センター運営協議会の合同開催で「公立保育所における「ＣＬＭ」実地運用の状況報告および意見交換会」を開会します。 はじめに、こども支援部原嶋部長からご挨拶申し上げます。
原嶋こども支援部長	おはようございます。年度末のお忙しい中、また緊急事態宣言下でございますが、皆様にどうしてもご意見いただきたいこと、また、この事業を来年度につなげていきたいことから、越智会長と池田会長のご了承のもと、本日開催の運びとなりました。 資料にもありますが、国立障害者リハビリテーションセンター学院と入間市が協定を結んだのは、昨年の３月１９日でございます。学院と自治体の協定は全国で初めてということで、ＰＲしたかったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で調停式ができませんでしたので、改めて協定の締結を報告させていただきます。 さて、国立障害者リハビリテーションセンター学院とは、協定以前から、実習生の受け入れ、それから児童発達支援事業「元気キッズ」へのアドバイスやご指導をいただいており、入間市としては、国の機関から直接ご指導いただけることを、もっと地域につなげて参りたいと思っておりました。発達に遅れや障害のあるお子さんへの対応が、公立保育所で遅れているような気がしておりました。保育士自身も、どういうふうに対応していったらいいのか、困っているような現状もございました。こうしたことをどうにか解決したいため、関教官、三重県の中村先生のご指導のもと、令和元年度からＣＬＭ研修を開催し、今年度からはこれから報告申し上げます実践に取り組んでまいりました。これらの経緯や今後の方針につきましては、資料２－１にまとめてございますので、後でご覧いただけたらと思います。 本日は、児童福祉審議会と児童発達支援センター運営協議会、両方に関

発　言　者	発　　言　　内　　容
	わる報告案件であることから、初めて合同開催とさせていただいております。両審議会委員の多様な意見をいただき、共有をしていただけたらと思っております。また、今後、両会のネットワークを広げて、さらに発展していっていただけたらと思っております。 大変短時間で恐縮でございますが、本日の会議、充実したものとなりますようお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。 ではここで、先生方を紹介させていただきます。 初めに、国立障害者リハビリテーションセンター学院児童指導員科主任教官、関剛規様でございます。 国立障害者リハビリテーションセンター学院は、障害者のリハビリテーションに関する技術者や、障害児の保護及び指導に従事する職員の育成研修を行う国の機関で、関先生は学院で発達障害児の支援者を育成する児童指導員科の主任教官として、専門家の養成に当たっていらっしゃいます。入間市児童発達支援センターの設置に際しましては、事業計画の策定をご指導いただいたほか、入間市と学院の連携協定の締結にご尽力いただきました。今年度からは、児童発達支援センター運営協議会の委員に加わっていただいており、ＣＬＭ研修の開催、実地運用では保育所に出向いてのご指導など協力をいただいております。 続きまして、国立障害者リハビリテーションセンター発達障害情報・支援センター、教育・福祉連携推進官畠山和也様でございます。 発達障害情報・支援センターは、発達障害に関する様々な情報を発信し、全国の発達障害者支援センターの中央拠点として、支援手法の普及や国民の理解の促進を図るとともに、自治体等に対して、地域における支援体制構築に向けた指導、助言を行う国の機関でございます。 教育と福祉の連携推進については、平成３０年３月に厚生労働省と文部科学省の連名で、「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト」報告が発出されております。

発　言　者	発　　言　　内　　容
関教官	畠山推進官は、教育と福祉の連携推進の旗振り役として、研修プログラムの開発などに当たっていらっしゃいます。 入間市においても、教育と福祉の連携については、まだ課題があると思っております。これからたくさんご指導いただきたいと思っております。 それでは、ここからの進行は関教官にお願いいたします。関教官、よろしくお願いいたします。 よろしくお願いします。事例を報告していただいてから、委員の皆さんに質問をいただき、それにお答えする形で児童や支援手法の理解を深めていただきます。そのあとにアイディアをいただきます。 この後、児童発達支援センター主任保育士の雨間先生と藤沢第二保育所の山田先生から実践を報告していただきます。現場の話が聞けるのは大変貴重なので、こういった場をすぐ用意できる入間市はさすがだなと思います。資料２－２に沿って説明します。 ポンチ絵３枚、スライド２「子育て世代包括支援センターの全国展開」、スライド３「巡回支援専門員整備事業」、スライド４「保育所等訪問支援」は、国から地域の連携に関して発出されたものです。良いものですが、全て運用しようとすると大変です。 次に、スライド５「地域における『縦横連携』のイメージ」の縦の連携についてです。児童発達支援センターは１８歳までですが、その次につなげなければならない。その後の方が人生長いです。そういったミッションを持っております。 それでは、担当者から報告いただき、その後で国立障害者リハビリテーションセンターから教育との連携ということで畠山推進官からコメントをいただきたいと思います。それでは雨間先生から報告をお願いします。
雨間主任	入間市におけるＣＬＭの取り組み経過は資料２－１にまとめてありますので、後程ご覧ください。 （資料２－２、スライド８～２９に沿って説明） ＣＬＭは、保健、福祉、教育の各分野の担当職員が連携して、集団の中

発　言　者	発　　言　　内　　容
	で、児童に対する個別支援計画を立てるためのツールです。「チェックリストイン三重」の頭文字をとってＣＬＭと名づけられています。 保育、幼児教育の現場では、これまでも外部の専門家から個別にアドバイスをいただき工夫を行ってきました。一方で、もらったアドバイスを集団保育の場でどのように実践し、展開したらよいのか、指導計画を作成する段階で、保育者は難しさを感じることがありました。 ＣＬＭでは、保育所など、集団保育での個別支援計画を作成する作業に、保健、福祉、教育など外部の専門職が参加することが大きな特徴です。 今年度は、入間市では外部専門職として国立障害者リハビリテーションセンター学院の児童指導員科主任教官、関先生のご協力を得ながら、保育幼稚園課の保育士、また私たち児童発達支援センターの職員が加わり実施しました。個別支援計画作成までの流れは、ＣＬＭ作成作業シートに沿って進めますが、本日は時間の都合上、抜粋して説明します。 まず、チェックシートに基づき、担任と外部の専門職が同じ視点でチェックし、点数を付け、優先順位を付けます。優先順位が高かった項目を絞り込み、表に洗い出し、担任の意見を大切にしながら、さらに支援の項目を一つに絞り込みます。絞り込んだ項目から、より日常の具体的な児童の姿を拾い出して、その一つの場面に対して、要因を考え、支援を作成します。作成した支援計画は２週間で実施評価し、これを繰り返します。 今年度、公立保育所２施設にご協力いただき、研修のための事例を提供していただきました。本日は１０月に行われた研修の後に行った、支援計画作成と振り返りの経過報告と、現在は２月に作成した支援計画を実施しておりますので、その振り返りを行わせていただきます。 まず、これまでの経過です。映像で、保育士に抱かれているお子さんが対象のお子さんです。支援前は、保育士の声かけがないと、室内を歩き回ったり、ボーっと座ったりして着替えが進まないというお子さんでした。自分の力で意欲的に着替えようとする姿が見られず、保育士がつききりで

発　言　者	発　　言　　内　　容
	関わり、気分を変えるなど支援しながら着替えを終えていたお子さんです。映像は編集で短くなっておりますが、最初の場面から着替えが終わるまでに２０分少々要するお子さんでした。ＣＬＭの「要因と支援の相関表」をもとに個別の支援計画を立てました。資料はスライドの１７、１８になります。タイムタイマーを使用して始まりと終わりの時間を明確にすること、また、意欲的に本人が取り組めるような支援をしましょうということで、２週間実施しました。 　こちらが２週間後の映像です。これからお部屋に入って着替えをするところです。今、タイムタイマーで着替えをする時間を少し明確にして取り組み始めたところです。こちらも編集で短くなっていますが、先ほど保育士の手がないと着替えが進まなかったお子さんが、自分の力で、最後まで終える姿の成長が２週間で見られました。実際は、２週間前と同様に、まだ長い時間がかかっています。そこで、さらに工夫をしていただき支援を見直して、再度実施をしていただきました。本人の好きなキャラクターを用いることでさらに意欲を高める支援を計画しました。詳しい内容については、スライドの資料の２０、２１をご覧ください。さらに２週間後の映像では、前回同様タイムタイマーを使用していますが、そこに本人の好きなキャラクターのシールを貼る工夫を行っていただきました。映像はトイレと手洗いまで済ませてから着替えをしている姿です。以前は着替える場所を部屋の隅にする形で配慮していただいていたお子さんですが、他のお子さんと同じところで着替える姿が確認できます。 　最初の映像では寝そべったり、保育士に抱かれたりしてていましたが、４週間後にはここまでの成長があり、着替えの場面で「先生が言わなくてもできるよ」と本人から言葉が出るほど自主的に行動ができるようになりました。 　次に、新たな支援の場面を朝の登所に設定しました。登所時に園庭を走り回ったり、テラスに座り込んだり、なかなか保育室に入ることができない姿がありましたので、同様に要因を考えて、支援計画を立てました。

発　言　者	発　　言　　内　　容
山田保育士	こちらの支援の計画についての詳細は、スライドの資料の２５～２８をご覧ください。結果的には保育士の簡単な声掛けでスムーズに入室ができるようになりました。 ここまでの経過を踏まえて、新たに取り組んだ支援の内容について、これから振り返りをさせていただきます。担任の保育士から説明します。 （資料２－２、スライド３０～３２に沿って説明） それでは支援内容を説明させていただきます。 子どもの姿から、今回はチェック項目の（９）「日課、習慣、場所、時間、道順などを変更しにくい」を選びました。 「エピソード」は、保育所では、ある程度、日々の生活の流れが決まっているのですが、その日の予定によって大きな変更があると、泣いて嫌がる姿がありました。また、１日の生活の中で、「次に何するの、次に何するの」と、何度も聞きに来る姿がありました。それに対し、保育士が答えると、「それでどうするの」とさらに聞かれ、繰り返し丁寧に説明をしていました。この姿に対して、「スケジュール表を見ながら、安心して過ごす」という目標を立てました。 要因としては、何をするのかわからないから不安。言葉だけではわからない。忘れてしまうという三つの要因があると考えました。 ①「何をするのかわからないから不安」に対しては、何をするのかがわかればよいということで、わかるようにスケジュール表を用意しました。②「言葉だけではわからない」に対しては、見てわかるようにすればよいということで、活動のカードを用意しました。③「忘れてしまう」に対しては、いつでも見られるようにすればよいということで、いつでも見られる場所にスケジュール表を置いておくようにしました。 それらをもとに、クラス全体の支援と個別の支援を考え、プランを立てました。詳しくは資料の３１、３２ページをご覧ください。このプランは、３月１日から取り組みを始めました。
雨間主任	それでは、映像で確認したいと思います。モザイク処理をしているので

発　言　者	発　　言　　内　　容
	少々見にくいですが、こちらが支援に取り組んでいただいた後の姿です。
関教官	モザイクで表情はわかりませんが、雰囲気は伝わったと思います。このように毎回評価をしています。 今日は、せっかくなので委員の皆さんに、これをもとにご質問をしていただきたいと思います。今回の報告について、簡単に質問を投げかけていくことで理解を深めていければと思います。私から順番でお願いいたします。では、年齢と、クラスのお子さんと先生の数を教えてください。
山田保育士	年齢は４歳児クラスです。お子さんは２４名のクラスです。担任の数は３名です。
畠山推進官	取り組みの目的をどのように決めたのか教えてください。
山田保育士	今回の目的は、安心して、対象のお子さんが過ごせるようにするということを一番の目的として、プランを立てました。
越智会長	着替えを設定とのことですが、着替えをするというスキルは、もともとあったお子さんなのでしょうか。
山田保育士	はい、ありました。
白木副会長	担任は３名とのことですが、担当を固定したのか、その日その日で交代したのでしょうか。
山田保育士	３人の担任が１週間ごとローテーションで対応していました。
池田会長 （児童福祉審議会）	タイムタイマーとはどんなものでしょうか。手づくりですか、それとも既製品ですか。
山田保育士	時計のような形で、針を動かすと、残り時間がどのくらいかが、視覚的にわかるようになっています。既成品です。
石川委員 （児童福祉審議会）	スケジュール表を見て、これはもう終わったとか、これは次にやるものだと認識できているのでしょうか。
山田保育士	スケジュール表は終わったものから消すようにしているので、何が終わったのかは本人にわかるようになっています。

発　言　者	発　　言　　内　　容
田辺委員（児童福祉審議会）	普段、どんな言葉を発しますか。
山田保育士	すごく好きなキャラクターがあるので、キャラクターを思い浮かべていろんな話をしてくれます。
新井委員	カードと文字を併用していらっしゃるようですが、文字の理解はどの程度でしょうか。
山田保育士	スケジュール表を読むことができます。
野澤委員	着替えの部分で２週間の様子を見せていただいたのですが、うまく行かない日とか、調子が悪い日は、先生はどのように対応されましたか。
山田保育士	調子が悪い日は、そばについて一緒に行うということを繰り返し行いました。
細川委員	着替えが進まない姿は、保育園だけのことなのか、ご家庭でもそういった様子があったのかを教えていただきたいです。
山田保育士	家でも進まないことがあると聞いています。
並木委員	数字や時間に対する概念はどの程度形成されている見立てでしょうか。
山田保育士	数字にすごく興味があって、日々の生活の中で気にして見ています。
清水委員	子どもは褒めることがとても大事だと思います。細分化してほめる等の工夫はされましたか。
山田保育士	できたときにご褒美マークを書いたり、担任全員で褒めたりなど支援をしました。
桂川委員	クラスで新しい取り組みをされる時はどんなタイミングで、何と言って始めたか、導入する時のやり方を教えてください。
山田保育士	クラス全体にも、この支援の内容のお話をして始めました。
関教官	これ以降は、今の動画と質問を含めてのご感想や、もしアイディアがありましたら提示いただきたいと思います。
宮岡委員（児童福祉審	集団の中で子どもたちの行動の中からアイディアを出し、計画を立てて支援するところが素晴らしいと感じました。

発　言　者	発　　言　　内　　容
議会)	
米山委員 （児童福祉審議会）	言葉だと説明がなかなか理解できないお子さんには絵や音で示したり、音楽で合図したりするということもあるかと思います。目や耳で知らせることも、とても必要なことなのだなということがわかりました。
島田委員 （児童福祉審議会）	園でこういう取り組みをしていることは、これまでは「できない」とか「やれない」という形に終わって、保護者としても、どうしたらいいのだろうと悩むところでした。園でこういう実践をしたら、こういう結果が出たよっていうことを、保護者にも伝えていただけたらいいと思いました。
高垣委員 （児童福祉審議会）	この取り組みをしていただいて、家ではお母さんがどのような変化を感じたか、気になりました。
野口委員	このお子さんが、多少の字が読めて、スケジュール表を見て自分の行動を次につなげられることに感心しました。私も孫が集中できないときは「すごいね」と褒めたり、工夫をしたりしますが、先生方もそういうことをされていると思います。素晴らしいなと思いました。
上野委員	山田さんから最後にお話いただいた、クラス全体に話をして始めましたというところは素晴らしいなと思いました。対象のお子さん１人を育てるのではなく、その集団を育てる、ひいてはその社会を育てるという意味で、周りのお子さんと、取り組みを共有していくというのは素晴らしいことだと思います。ぜひこれからもよろしくお願いします。
関教官	いろいろなご意見ありがとうございました。山田先生から感想やご意見をいただきたいと思います。
山田保育士	本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございました。いただいた意見は、今後参考にさせていただきます。 初めは、この支援方法に対して、準備が大変という印象でした。しかし、実際に取り組む中で、子どもの成長が目に見えてわかり、とてもうれしく感じました。この子には半年前、常に１人の保育士がつき様々な声かけや援助をしていました。そして、眉間にしわを寄せて過ごしていること

発　言　者	発　　言　　内　　容
	が多く、集団から遅れてしまう姿がありました。今では落ち着いて自信を持って、身の回りのことができるようになり、笑顔が増え、適応できるようになりました。これまでの取り組みは、生活面での支援でしたが、自信を持って生活できるようになったことで、お友達との関わりが増えたり、集団遊びに自分から参加したりと、遊びにも変化が見られています。ＣＬＭを通して、これまで行動に対して要因を考える視点が未熟だったことに気が付きました。そして、要因に目を向けて支援を考えることで、いろいろな支援方法があることを学びました。大変なこともありましたが、成長した姿を見ることができ、取り組んでよかったと思っています。成長することで、新たな課題も見えてきましたが、子どもたちの個性を大切にしながら、今後も成長を見守っていきたいと思っています。
関教官	山田先生ありがとうございました。準備から、すごく大変だったと思います。最後に、全体的なコメントを畠山推進官からお願いします。
畠山推進官	入間市ではＣＬＭを使って子どもたちを支援する考え方を取り入れ、取り組み始めたということです。保育士さんも、本当に頑張っていますが、体制的には二十何人を３人で見る時に、どの園でも集団の中に難しい支援が必要なお子さんたちは存在する現状の中で、どうやっていくかを手探りで、本当に皆さん苦戦されて、頑張って努力されている実情があります。 このＣＬＭは１６のチェックポイントの視点で子どもたちを見ることによって、集団の中で気になる子どもたち、障害のあるなしに関わらず「ちょっと落ち着きがないな」「ちょっと不器用だな」「ここが気になるな」というところを、関わる保育士さんが情報を共有します。 ＣＬＭは、この子にはこういう課題があるよね、こういうふうにやっていきましょう、園として、この子たちをどういうふうに支援していこうかという情報共有に使えるツールです。 こうした情報共有の役割分担をいろんな人とやっていくためのツールが１つあるだけでも、２週間、４週間の実践で、子どもが変わっていく、子どもが答えを出してくれています。状況を整理する指標として、随分有効

発　言　者	発　　言　　内　　容
	で活用できるものだと思います。 園にとどまらず、学校に情報が引き継がれることも大事です。担当が変わっても、この情報がこの子にとっての合理的配慮として、みんなと平等に学べるための、環境を整えることに活用される。ユニバーサルデザインと言われますが、その子への支援というだけでなく、誰もがアクセスする、誰もがわかりやすい、そういった環境を整えていくことで、子どもたちが学びやすくなる。 保育所指針や幼稚園教育要領には幼児期の終わりまでに身につけさせたい力が掲げられています。幼稚園の中でしっかりと自立の力を蓄えて育て、それがまた小学校に、小学校から中学校、中学校から高校に引き継がれていくことが大事です。 自分は教育・福祉連携推進官ですので、教育と福祉がそれぞれ、目的・目標は違いますが、役割分担をして、地域にいる子どもたちの子育て、その子たちが自立していく力を育てる仕組みを、何とか地域で作ってほしいと考えます。 入間市は、子育てに力を入れていて、児童発達支援センターが保育所を支援して専門性を向上していく。この役割を明確にし取り組んでいきます。今後とも実践と発信に取り組んでほしいと思っております。
関教官	畠山推進官には現場での実践のお話等、またの機会にぜひお話を伺えればと思います。 まとめに移ります。５月の日本保育学会では飛騨高山市からCLMの実践報告がありました。飛騨高山では、アセスメントの際に副市長と教育長も入っていました。連携をする上で、そういった方が入ってきて、いろんなお話をする機会が大事だと思います。 入間市が１０月から毎月そうしたことに取り組んでいます。規模は小さいですけども、ボチボチと始めてこういった成果が出ています。 ＣＬＭでいう「途切れのない発達支援～保育と教育に求められる目利き・腕利き～」ですが、発達は凸凹しています。運動が比較的できるけ

発　言　者	発　　言　　内　　容
	ど、算数が苦手だとか、発達障害の診断がある、ないではなく、支援が必要であれば支援をする。できない状態、わからない状態を放置すれば当然そのまま成長します。誤学習もします。ちょっと体が大きくなると二次障害とか言われてしまうのですが、それは成るべくして成っていることだと思います。 今回のＣＬＭの取り組みは、子どもがわかる環境、できる環境を準備します。そのためにみんなでアセスメントします。 保育で加配をつける意味は、ただ単に後追いすることではないはずです。加配の先生に助けてもらいたいこと、やっていただきたいことは、環境を事前に準備することだと思います。 大きい子と小さい子に同じサービスを与えればいいということではありません。小さい子には箱を台にして同じ高さにしてあげる。いらないならいらない。そうして保育園、学校で支援をすること、均てん化があるべき姿です。同じ支援をすればよいわけではないのです。どこの地域に行っても同じ支援ができるように均てん化するという意味合いだと私は理解しています。保育士さんはこうしたことのプロですので、保育士さんに「頑張ろう」とか、「もっと発達障害を見てくれ」と要求する話ではありません。保育の先生は発達のことをよくご存知です。事前の準備ができていれば保育園の先生はバタバタしないで済むはずです。ただ、その時間が取れるかどうか、先に準備するかの違いです。 私も秩父学園で働いていたときは後追いをしていましたが、「他の子を叩いたから止める」のではなく、叩かない状況（環境）を作ることに注力するということです。 親御さんや保健師さんが早期発見します。診断できるのはドクターだけです。保育園の先生たちは、現場で支援をします。 支援にあたってはＣＬＭのようなシステマティックな方法で行うことが重要です。多職種連携ということで、先生が１人で思い悩まない、抱え込まないように、入間市全体でバックアップしていただきたい。

発　言　者	発　言　内　容
	これまでの巡回相談や巡回指導は、検診とフォローアップのセットで指導してきたようです。本当にそれでいいのか、考える時期ではないかと考えています。 指導にはゴールを設定するものですが、ゴールを設定することが難しい場合があります。そのときは理解していく、アセスメントをちゃんとやっていくことになると思います。専門職であっても、現場を知らないで連携しようとして空回りすることには気をつけなくてはいけません。経験年数が長いとか、心理職であるとか、幹部職などの肩書だけでは、現場ではあまり役立たないです。現場で説明ができなければ意味がない。ＣＬＭのよいところは現場にいる担任の先生に聞くことです。「これできますか」「それやってみる」で、できなければそれはそれでいいわけです。 最後に、連携についてですけれど、いま私が話しているのは本来、畠山推進官の役割で、私は余計なことをしています。多少オーバーラップ気味とは、そういう意味です。 さきほど、ぜひ、学校の先生にという話がありました。学校の先生が一緒に行って評価できたらすごくいいなと思います。その時間だけ来てもらって子どもの様子を見てもらう。自己紹介がてらに来てもらうなんて、すごくいい機会だと思います。今回、この仕事をしていてすごく思いましたが、お子さんの笑顔が増えて保育園の先生たちが本当に楽しい保育をされている姿を見ます。そこに同席できることで、こちらもパワーをもらえる実践でした。来年度以降また広げていくと聞いておりますが、ただＣＬＭを広げていくということではないと思います。 訪問型のバックアップをしていくシステムを作らなくてはという時に、このＣＬＭはすごく使い勝手がよいです。本当であれば三重の中村先生が指導するところを、私と、児童発達支援センターの雨間さん、保育幼稚園課の先生が代行しています。そういった意味では入間でまず始めていって、埼玉県内に広げていくこともできるのかなと思っています。 限られた時間の中ですが、皆さんに質問いただいたり、ご意見いただい

発　言　者	発　　言　　内　　容
	たり、違った専門家の先生方が入って一緒に考えたりすることが大事だなと思います。 ここでお時間となりました。進行を所長にお戻しします。
司会（木下課長） 杉島市長	ここで杉島市長からご挨拶を申し上げます。杉島市長よろしくお願いいたします。 皆さんこんにちは。入間市長の杉島でございます。 今日は、運営協議会、また児童福祉審議会の合同開催ということで参加いただき誠にありがとうございます。私も資料を事前にいただいて、勉強させていただきました。今回こうした形で取り組みをさせていただいて、またご指導をいただいてこうして進められていること、大変価値が高い意義のあることだというふうに思っております。前の田中市長の時代からしっかりと進めていこうということでありましたし、私自身としても、今回のＣＬＭをはじめ、この子どもたちの切れ目のない支援をしていくことにより力を入れていきたいというふうに思っておりますので、今日のご参加の皆様方にも、ぜひお力添えをいただきたいと思っております。 私自身も、市長になる前は県会議員をしておりまして、県の方では、特別支援教育をどのように充実させていくかということをずっと一生懸命やってまいりました。様々なケースを見ると、先生方は愛情がある。何とかしてあげたいという思いがあるけれども、関わり方ひとつ、言葉ひとつ、指導の仕方ひとつで、違った方向に進んでしまう。そういった事例をたくさん見てきて、これだけ愛情があるのに、なお良い方向に進まない。すごく不幸な事例がたくさんあったと思っております。そういった意味でもしっかりと、メソッドがわかっている、やり方がわかっている。それをしっかりと事前に準備をしていく。そのことの重要性を学ばせていただきましたので、それをぜひしっかりと愛情の形となって伝わり、そしてそれが、子どもたちの学びに直結する、育ちに直結する。そういった体制を入間市が作っていきたいと思っています。私としても、入間市では、どんな子どもでも元気に、生き生きとすくすく育つ。どんな子どもたちにも 100％、

発　言　者	発　言　内　容
	200％の愛情をもって育てていく。そういう入間市になりたいと思っておりますので、子どもたちのためならば、市としては何でもしていくつもりでありますので、今回の事例発表を受けて、今後しっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、様々ご意見をいただきながら、ぜひご協力をお願いして進めていきたいと思っております。今後とも引き続き、特に皆様方にはご指導賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。今日は本当にありがとうございました。
司会 （木下課長） 越智会長 （児童発達支援センター運営協議会）	閉会のご挨拶を児童発達支援センター運営協議会越智会長からお願いいたします。 こんにちは。児童発達支援センター運営協議会の方の会長を務めさせていただいております。越智と申します。 今日は本当に素晴らしい実践報告をありがとうございました。私も障害の息子を持つ親ですけれども、振り返ると、幼児期が一番大変で、混乱して混沌とした、訳がわからない雲の中で生活しているような時代でした。今日のこの発表を聞いて、親もやっぱり「障害児の親」となるのは初めてだから、何をどうしていったらいいかわからない。そういう中で、このＣＬＭのように、毎日通う保育所で、身近なところで、知っている先生が子どもをアセスメントし、丁寧な説明等をしてくださって、その議論の環境や支援の方法をみんなで考えてくださる中で、子どもが傷つかない、罰せられたり、怒られたり叱られたりしない。保護者にも、こういうことしたら子どもができるようになったよという発信ができる。それから子どもに関わる保育士さんたちも、目の前の子どもが変わっていくプロセスとか「変わった」と実感する瞬間がきっとあったのではないかと思います。保育所ではこれまでなかった取り組みかなと思います。実は藤沢第２保育所長の滝澤先生はうちの子１年間お世話になった先生で、もう２５、６年も前ですけれども、そういう時間を経て、保育所で取り組めるようになったのだなと思いました。 もう１つ、すごくいいなと思うのは、クラス全体として、どういうふう

発　言　者	発　　言　　内　　容
	にクラス運営をしていくか、プラス、個別指導で、問題あるという言葉は適切ではないですけれど、その中でどういうふうに集団に入れていくか、一緒に育てていくかという、今障害のある子もない子も一緒に地域で生きていきましょうという考えの本当に基盤になるものになっていくのではないかなと思いました。 最後になりましたが、今日、実践を発表、指導していただいた関先生、畠山先生、ありがとうございました。私も自分の子の映像を撮って、アドバイスをいただいてきたので、本当に現場は大変だったと思います。本当にありがとうございました。 それからこのコロナ禍の中、今日の開催を企画してくださった、関係各課、協議会事務局の職員の皆様も本当にご苦労さまです。ありがとうございました。 最後にお忙しい中、駆けつけてくださった杉島市長にもお礼申し上げます。ぜひ、入間市として、このシステム、手法を保育の現場で、これから取り組んでいただけますよう、よろしくお願いいたします。
司会（木下課長）	これで第６回児童福祉審議会、第３回入間市児童発達支援センター運営協議会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

議事のてん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

令和 3 年 4 月 8 日

議　長　の　署　名　　越智 恵子

議長が指名した者の署名　　新井 真由美